緑色と茶色のビール瓶：ガラスの色が思った以上に重要な理由

単独で常に優れている色はありません。違いは、それぞれの瓶が光をどのように遮るか、そして色がブランドのアイデンティティにどのような役割を果たすかにあります。

2026年11月19日（木）



琥珀色のガラスは一般に緑色よりも光からビールを守る効果が高いものの、どちらも涼しく暗い場所で保管するのが適切です。 AIで生成された学習用イラスト。

ビール瓶の色は、見た目だけで選ばれるわけではありません。通常、同じ容器が担う二つの役割を兼ねています。光からビールを守ることと、ブランドをひと目で認識できるようにすることです。そのため、緑色と茶色、または琥珀色は、品質の優劣を示すのではなく、異なる包装上の選択を表しています。

緑色か茶色か：色には複数の役割がある

ビールをガラス瓶に詰める場合、色が重要なのは、透過する光の量や種類が変わるためです。一般に、茶色や琥珀色のガラスは、ビールの香りを変化させる可能性のある光から、よりよく保護します。しかし、それだけが色の役割ではありません。瓶は、形やラベルと同じように、ブランドの視覚的なアイデンティティの一部にもなり得ます。そのため、多くの市場で緑色と茶色の瓶が使われ続けています。

混同されがちな三つの考え方を分けて考えるとよいでしょう。一つは、ガラスがもたらす保護です。もう一つは、特定の瓶の実際の状態。そして三つ目は、ビール全体の品質です。緑色の瓶だからといって、中のビールが傷んでいる証拠にはなりませんし、茶色の瓶だからといって、完璧な状態が保証されるわけでもありません。ここで取り上げる問題は、緑色や茶色のガラスが何らかの形で液体に風味を移すことではなく、ビールに届く光と、瓶がどれだけ光を通すかに関係しています。

区別して考えるべき三つのこと

ガラスの色が示すのは光からの保護についてであり、品質の優劣ではありません。

緑色の瓶だからといってビールが傷んでいる証拠にはならず、茶色の瓶だからといって完璧な状態が保証されるわけでもありません。

ガラスの色はどのように生まれるのか

色は外側に塗料のように塗られるものでも、後からビールに移るものでもありません。ガラス自体の一部であり、組成や製造工程を調整して作られます。琥珀色のガラスには、鉄、硫黄、炭素を組み合わせる方法がよく用いられます。緑色のガラスにはクロム化合物が使われることがあり、さまざまな色合いを出すうえでは鉄も関わります。簡単に言えば、色は製造時に瓶そのものに組み込まれます。

このことから、緑色にもさまざまな色合いがあり、茶色もすべてがまったく同じ性質を持つわけではないとわかります。同じ色の分類に入るガラスでも、配合や仕上げに違いがある場合があります。そのため、緑色と茶色は、どのメーカーも同じ決まった配合で作る色ではなく、ガラスの種類として捉えるほうが適切です。ビール瓶を理解するうえで重要なのは、色が包装材そのものに由来し、光の入り方に影響するという点です。

光がビールに及ぼす影響

ビールには、光にさらされると反応する物質が含まれています。その一つがリボフラビンで、ビタミンB2としてよく知られています。光を吸収すると、苦味のもととなるホップ成分に影響する反応に関わります。その一連の反応によって、不快なにおいの物質が生じることがあります。化学物質の名前を覚える必要はありません。重要なのは、光によって完成したビールの香りが変化することがあるという点です。

この香りの劣化は、ときに、スカンクに似た鋭いにおいという印象的なたとえで説明されます。この表現は問題を認識しやすくするためのもので、瓶入りビールがすべてそのようなにおいになるとか、緑色の瓶なら必ず影響を受けるという意味ではありません。また、この問題を紫外線だけのせいだと説明するのも適切ではありません。研究によると、可視光の特定の波長も関与することがあります。

これは消費者にとって重要な意味を持ちます。リスクは、瓶を直射日光の当たる場所に置いた場合だけに限られません。強い照明や、室内でも長時間照明にさらされることで、こうした反応が促されることがあります。ビールにとって瓶の色が重要なのは、ガラスが飲み物に触れて風味を変える

からではなく、香りの劣化を引き起こす可能性のある光を含め、光を遮る効果が色によって異なるためです。

光が香りを変化させる仕組み

1. 光が瓶に入る

   ビールは紫外線だけでなく、可視光の特定の波長にもさらされます。

2. リボフラビンが関与する

   ビタミンB2が光を吸収し、ビールの中で起こる反応に関わります。

3. ホップ成分に影響が及ぶ

   一連の反応が、苦味に関係する物質に及びます。

4. 香りの劣化が起こることがある

   場合によっては不快なにおいが生じ、スカンクに似たにおいと表現されることもあります。

琥珀色の瓶が通常、よりよく保護する理由

ビール瓶によく使われる色の中では、茶色や琥珀色のガラスが、ビールの感覚的な変化に関係する紫外線や青色光を減らす効果が通常もっとも高いとされています。ただし、その利点は正確に表現する必要があります。通常、よりよく保護するといっても、すべての光を遮断したり、不適切な保管からビールを完全に守ったりするわけではありません。

光の透過量を測定すると、色だけですべてが決まるわけではないこともわかります。光がどれだけ通過するかは、ガラスの正確な組成と厚さの両方に左右されます。緑色のガラスでも、調査対象となるサンプルによって性能に差が出ます。そのため、「緑色の瓶はすべて保護性能が低い」「茶色の瓶はすべて完璧に保護する」といった絶対的なルールに置き換えるべきではありません。読者にとって役立つ比較は、もっと簡潔です。一般に目にするビール瓶では、琥珀色のほうが緑色よりも優れた障壁になる傾向があります。

項目	ビールによく使われる緑色のガラス	ビールによく使われる茶色または琥珀色のガラス
光の透過	通常、ある程度の光は遮りますが、香りを変化させる可能性のある種類の光は、一般により多く通します。	感覚的な変化に関係する光を遮る効果は、通常こちらのほうが高くなります。

項目	ビールによく使われる緑色のガラス	ビールによく使われる茶色または琥珀色のガラス
そこから判断できないこと	それだけで、ビールが傷んでいる証拠にはなりません。	それだけで、ビールが完璧な状態だと保証されるわけではありません。
重要な補足	ガラスの組成や厚さによって結果が変わることがあります。	ガラスの組成や厚さによって、こちらも結果が変わることがあります。

それでも緑色の瓶が使われる理由

包装は、技術的な理由だけで選ばれるわけではないからです。遠くからでもブランドを認識しやすくし、そのイメージを長く一貫して保つ役割もあります。Heinekenは自社の企業史の中で、緑色を視覚的なアイデンティティと結び付けています。これは、すべての醸造所が同じ理由で同じ色を選んだことを示すものではありません。しかし、ビール瓶は製品を保護すると同時に、ブランドを伝えるものでもあるという重要な点を示しています。

Weihenstephanerとの対比からは、もう一つの優先事項がわかります。この醸造所は、光からより強く保護できることを理由に、茶色の瓶を好むと説明しています。この二つの例を合わせて見ると、業界全体に共通する唯一の答えはないことがわかります。包装には、光からの保護と商業的なアイデンティティの両方を持たせることができます。したがって、緑色は高級さの象徴、茶色は一般的なビールの印だと解釈するのは誤りです。

一つの瓶に共存し得る二つの理由

光から守る

琥珀色は、通常の光を遮る効果が高いことから選ばれる場合が多くあります。

Weihenstephanerは、茶色の瓶を好む理由としてこれを挙げています。

ブランドを認識しやすくする

瓶の色は、視覚的なアイデンティティの一部にもなり得ます。

Heinekenは、緑色をブランド認識の役割と結び付けています。

どちらの色にも役立つ注意点

実践的な助言は簡単で、住んでいる場所を問わず、成人の消費者なら誰にでも当てはまります。瓶は涼しく暗い場所に置き、日光や強い光、長時間の光への露出を避けましょう。光を遮る密閉箱に瓶を入れておけば、その箱も有効な保護になります。この注意は緑色と茶色のガラスのどちらにも必要です。どちらの色も、ビールを無敵にするわけではないからです。

結局のところ、瓶の色から包装について何かを知ることはできますが、中のビールを判断するには不十分です。琥珀色は通常、光に対する利点があり、緑色はブランドのアイデンティティを表すことがあります。どちらの場合も、実際の状態はビールそのもの、ガラスの種類、これまでに受けた光の影響によって異なります。瓶を見ることはその役割を理解する助けになりますが、色だけで良し悪しを決めるより、適切に保管することのほうが重要です。